

令和四年度

京大大学生存圏研究所公開講座

先人の才知に学ぶ

サステナビリティ

参加費
無料

第一回

令和4年11月25日(金)

17:30~18:30

農業を支えてきた土の中の微生物
～畑の土×最先端分析～



杉山 暁史 (生存圏研究所 准教授)

田んぼ一面にレンゲが咲き誇る、かつてはごくありふれた日本の春の田園風景。そんな古からの農業の知恵を最先端の分析機器で探ることで、持続的な食料生産のあり方について考えてみます。

第二回

令和4年12月16日(金)

17:30~18:30

オーロラの神秘を解き明かすカギは、
古記録にあり？



海老原 祐輔 (生存圏研究所 准教授)

夜空に揺れる光のカーテン「オーロラ」。最先端のコンピュータシミュレーションを用いて、現代はもちろん、“過去”に起こったオーロラ活動を調べてみると、地球と私たちの“未来”が見えてきます。

第三回

令和5年1月20日(金)

17:30~18:30

文化財を紐解く～木材×歴史×科学～



田鶴 寿弥子 (生存圏研究所 講師)

木を利用して文化を発展させてきた人類。仏像や建造物など木製文化財の科学的調査からは、人間と木とのあわいにあり、そして未来へも伝えるべき絆の諸相が見えてきます。

第四回

令和5年2月17日(金)

17:30~18:30

地球上で一番巨大な生物から古く
て新しく強い材料が生まれる話



阿部 賢太郎 (生存圏研究所 准教授)

46億年の地球史で、最も大きな生物は何でしょう？ときに高さ100 mを超え、重さ1000 tを超えるその巨大生物の体は、とても細い、けれど、とても強い繊維“セルロース”が支えています。セルロースをめぐる新しい材料開発を紹介します。

オンライン開催
事前申込制

聴講希望の方は、下記のGoogleフォームからご登録ください。

<https://forms.gle/zoE1vbtQvFxzPALp7>

本公開講座に関するウェブサイト：

https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/rish_koukaikouza_r4/

